

デュエマ BanG Dream!

穂乃果ちゃん推し

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

小さな頃に満天の星空を見上げた戸山香澄は、星の鼓動を聞いたと言う……。そんな少女の夢は『キラキラドキドキする事』！

世間では『デュエル・マスターズ』通称「デュエマ」が浸透して、何処でも楽しめるデバイス『RDM S（リアルデュエマシステム）』によって、活性化していた！

そんな世の中で、高校生となった彼女の下に、一通の手紙と共に謎のデッキが送られて来る！果たして…彼女を待ち受ける壮大な運命とは！

# 目次

# 1.	「始めちやった！」	1
# 2.	「戦っちやった！」	9
# 3.	「ぶつかっちやった！」	24
# 4.	「驚いちゃった！」	31



## #1. 「始めちやつた！」

side (9年前) [ある丘にて]

「早くおいでよ！」

「待って、お姉ちゃん！」

私は妹が止めるのもお構い無しに、暗い森の中を掻き分けて進んで行った。そして……そこを抜けた先には！

「うわあ……綺麗……」

「ホントだね……」

「……！あっちゃんあっちゃん！」

「どうしたの？」

「私……鼓動が聞こえた気がする！」

私は思った事を正直に妹に言う。すると、妹は呆れた視線を送りながら……『お姉

ちゃん、何かの間違いじゃないの?』と言ってきたが。

ともかく……私は確かに聞いたのだ、満天の星空に浮かぶ星たちの……星の鼓動が!

—————

〔現在〕【戸山家：香澄の部屋】

私、戸山香澄! 今日から新しく『花咲川女子学園』って言う学校に入学する新入生! 待ちきれなくて、早起きしちゃった!

香澄「ん……よし!」

私は制服をキチンと整えると、直ぐ様自分の部屋から出て、ある部屋へと向かいまして!

【明日香の部屋】

明日香「……んんっ」

忍び足で妹の部屋に入ると、規則正しい寝息を立てている妹が居た。……ふっふっふ、明日香がそうなら、お姉ちゃんに考えがあるよ?



香澄「今日から……ここに通うんだ! 楽しみだなあ」

? 「どうかしましたか?」

香澄「あ! 貴方も1年生?」

私に声をかけて来た、栗色の髪をウェーブにしてポニーテールで纏めている女の子は  
こう答えました。

? 「そうだよ。私は山吹 沙綾、よろしく」

香澄「私、戸山香澄! よろしくね、さーや!」

沙綾「戸山さん……か。よろしく」

そう言って私たちは学校の中へと、入って行きました! 後にさーやからこの学校の事  
について聞いたんだけど、この学校は中高一貫校なの! ……暫く校舎を回り、入学式を  
迎えたんだけど、その時の総代挨拶で……ある事が……。

先生『新入生総代挨拶……代表、市ヶ谷有咲。……市ヶ谷? 市ヶ谷!』

香澄「(どうしたの?)」



沙綾「(市ヶ谷さんは、成績優秀なんだけど……出席日数稼ぎの為に、学校に来てるって人なんだ)」

香澄「(へえー)」

その後、私たちは新クラスの教室に入り、簡単なホームルームと自己紹介を行なった！……そしてその帰りに、奇妙な出来事が！

香澄「さてと、帰ろく……ん？何、これ？」

沙綾「どうしたの？」

香澄「これが靴箱の中に入れて……」

私がさーやに入っていた物を見せると、怪しげな物を見るかのような視線で見始めました。

沙綾「差出人は不明……そして謎のデツキ、か。」

香澄「さーやく……どうしよく」

沙綾「まあ……突っ返すのも悪いし、取り敢えず行ってみたら？その……『RED

SPEED』ってお店に」

香澄「うーん……分かった」

そう言つて沙綾とは校門のところで、別々の道を進みました。そして私は暫く歩き、目的の場所である『RED SPEED』というお店に辿り着きました。

—————

【カードショップ『RED SPEED』】

店員「いらっしゃいませー」

私は中に入りました。するとそこには、私が見た事の無いカード達が所狭しとショーケースに並べられていました。

香澄「来たはいいけど……どうしよ?」

店員「どうかした?」

香澄「うひゃあ!」

店員「ありやりや……驚かせちゃった? デュエマシに来たの?」

人当たりの良さそうな笑みを浮かべて、私を見てくる男性がそう聞きました。私はそれにこう返しました。

香澄「鞆箱を見たら、いきなり……」

店員「く、鞆箱?!……そりやあまた珍しい」

香澄「このカード、届けたいんですけど……ここに来れば、何とかなるかなって」

店員「……じゃあさ、預かってたら?その人が見つけた時、ちゃんと返せるように」

香澄「そうですね。ありがとうございます!……あ、自己紹介が遅れました!私、戸山香澄です!」

私が名前を名乗った時、それを見た店員さんは私の目を見てこう答えました。

店員「じゃあ……僕も自己紹介しようかな。僕は盛谷 颯樹と言います。花咲川高等学校って言う、共学の高校に通っている2年生です」

香澄「よろしくお願ひします!……ところで、盛谷先輩はどうして此処に?」

颯樹「敬語じゃなくて良いよ。僕はここでバイトしてるんだ。香澄ちゃん、初心者みたいだから……僕がデュエマの事を教えてあげるよ」

香澄 「良いの!？」

なんと、颯樹くんは私にデュエマを教えてください！ヤッター！やるからには、絶対に勝ちたい！よろしくお願いします！

## #2. 「戦っちゃった！」

【カードショップ『RED SPEED』】

颯樹 「それじゃあ……始めて行こうか」

香澄 「うん！よろしくね！」

颯樹 「まず1つ聞くけど、ルールは知ってる？」

颯樹くんは私に質問をして来ました！デュエマのルールに関してだったので、それは知っていました！

香澄 「妹がやっている所を見て、覚えたよ！」

颯樹 「分かった……じゃっ、本気で行くよ」

香澄 「うん！」

颯樹 「シールド展開」

颯樹のシールド0↓5

香澄「シールド展開!」

香澄のシールド0↓5

私と颯樹くんはデッキの上から5枚をシールドとして置きました!さらに上から5枚を手札に加え、準備を終えました!

颯樹「それじゃあ……始めるよ!」

香澄「よろしくね!」

颯樹／香澄『デュエマ……スタート!』

そう宣言した瞬間、仮想空間に立っている私の周りに風が吹き始めました!それは颯樹くんも同じ事で、涼しい顔をして立っていました!

【TURN1】〔PL:香澄〕

香澄「私の先攻だよ!手札から1枚をマナチャージ!1マナを使って……へ凶戦士ブレイズクロウ」を召喚!

香澄の手札5↓4↓3／マナ0↓1↓0

1  
1  
1

凶戦士 ブレイズクロウ

【文明】 火文明

【種族】 ドラゴノイド

【manaコスト】 1 【パワー】 1000

■このクリーチャーは、可能なら毎ターン攻撃する。

—————

香澄 「私はこれでターンエンド」

香澄の手札3 / mana0 / 使用mana1 / シールド5

—————

【TURN2】 【PL: 颯樹】

颯樹 「僕のターン！ドロウ、manaチャージ！僕もmanaを使ってへ凶戦士 ブレイズ

クロウを召喚！」

颯樹の手札5 ↓ 6 ↓ 5 ↓ 4 / mana0 ↓ 1 ↓ 0

香澄 「(颯樹くんも私と同じ【火文明】……)」

颯樹 「僕はここでターンエンド」

颯樹の手札4 / mana0 / 使用mana1 / シールド5

—————

【TURN3】〔PL:香澄〕

香澄「私のターン! ドロー、マナチャージ! 2マナを使ってへ一撃奪取 トップギアを召喚!」

香澄の手札3↓4↓3↓2 / マナ0↓1↓2↓0

—————

一撃奪取 トップギア

【文明】 火文明

【種族】 アウトレイジ

【マナコスト】 2 【パワー】 1000

■各ターン、自分の火のクリーチャー1体目の召喚コストを1少なくしてもよい。ただし、コストは0以下にならない。

—————

香澄「行つくよー! ブレイズクローで……真ん中のシールドをブレイク!」

颯樹「ぐうっ!」

颯樹の手札4↓5 / シールド5↓4

颯樹くんは捲ったカードを確認します。……どうかな? 出来れば、トリガーだけは来



て欲しくない！

颯樹「……トリガーなし」

香澄「私はこれでターンエンド！」

香澄の手札2／マナ0／使用マナ2／シールド5

—————

【TURN4】〔PL：颯樹〕

颯樹「僕のターン！ドロー、マナチャージ！僕も2マナを使ってへー撃奪取 トップギアを召喚！そして……ブレイズクローで左端のシールドをブレイク！」

颯樹の手札5↓6↓5↓4／マナ0↓2↓0

香澄「ううっ……。トリガーはく……。無い」

香澄の手札2↓3／シールド5↓4

颯樹「これで僕はターンエンド」

颯樹の手札4／マナ0／使用マナ2／シールド4

—————

【TURN5】〔PL：香澄〕

香澄「私のターン！ドロー、マナチャージ！……えと、これで良いのかな？」

香澄の手札3↓4↓3 / マナ0↓2↓3

颯樹「んん?」

香澄「トツプギアの効果で、火のクリーチャー1体目の召喚コストを1減らす……よって、3マナを使ってへ凶戦士 ブレイズクロウから【進化】!へ鳳凰 マツハギアア!!!」

香澄の手札3↓2 / マナ3↓0

本来使用するはずだったマナ:4

颯樹「(ちよつとちよつと……初心者で、ここまでできる娘は早々いないよ!?)」

—————

鳳凰 マツハギア

【文明】 火文明

【種族】 ファイアー・バード炎

【マナコスト】 4 【パワー】 6000

■進化—自分の火のクリーチャー1体の上に置く。

■このクリーチャーをバトルゾーンに出した時、相手のコスト4以下のクリーチャーを1体破壊する。

■W・ブレイカー

「……」  
 香澄「マツハギアの効果で、相手のコスト4以下のクリーチャー……トツプギアを破壊！」

一撃奪取 トツプギア（颯樹side）【破壊】!!!

香澄「マツハギアで両サイドのシールドをブレイク！……こういう時は、こう言うんだよね？」

颯樹「（ちよつとちよつと……僕って、とんでもない娘を相手にしてる!?!）」

香澄「W・ブレイク！」

颯樹「ぐうっ！……よし！一枚に反応あり！」

颯樹の手札4↓5 / シールド4↓2

香澄「!？」

颯樹「シールドトリガー……発動！へ音速 タルボをバトルゾーンに！」

「……」

音速 タルボ

【文明】 火文明

【種族】ソニック・コマンド／侵略者

【マナコスト】5 【パワー】5000

■S・トリガー

■このクリーチャーは、可能なら毎ターン攻撃する。

—————

香澄「まだまだだ〜! トップギアでシールドをブレイク! 矛先は……右!」

颯樹「発動! シールド・トリガー……へめた切り・スクラッパ〜!!!」

颯樹のシールド2↓1

—————

めた切り・スクラッパ

【文明】火文明

【マナコスト】7 【種類】呪文

■S・トリガー

■相手のクリーチャーを、コストの合計が6以下になるように好きな数選び、破壊する。

—————

颯樹「マツハギアとトップギアを破壊!」

鳳凰 マツハギア【破壊】!!!

一撃奪取 トツプギア【破壊】!!!

香澄 「タ、ターンエンド……」

香澄の手札 2 / マナ 0 / 使用 マナ 3 / シールド 4

—————

【TURN 6】〔PL：颯樹〕

颯樹 「やってくれたね……？ 此処からは、僕はトマライヨ？ イグニッション……！」

香澄 「颯樹くん？」

颯樹 「俺のターン！ ドロー、マナチャージ！……待ってたぜ！」

颯樹の手札 5 ↓ 6 ↓ 5 / マナ 0 ↓ 2 ↓ 3

颯樹くんから放たれる、まだ見ぬ威圧感を感じた私は、思わず身震いをしてしまいました！ そんな私の気も知らず、颯樹くんは続けます！

颯樹 「行くぜ……タルボで攻撃！ この時……〈侵略〉発動！」

香澄「〈侵略〉!?!」

颯樹「自分のクリーチャーが攻撃した時、条件を満たしているなら使える能力……それが〈侵略〉! タルボから【進化】……〈轟く侵略 レッドゾーン〉!!!」

颯樹の手札5↓4

—————

轟く侵略 レッドゾーン

【文明】 火文明

【種族】 ソニック・コマンド／侵略者

【マナコスト】 6 【パワー】 12000

■進化—自分の火のクリーチャー1体の上に置く。

■侵略—火のコマンド(自分の火のコマンドが攻撃する時、自分の手札にあるこのクリーチャーをその上に重ねてもよい)

■T・ブレイカー

■このクリーチャーがバトルゾーンに出た時、一番パワーが大きい相手のクリーチャーをすべて破壊する。

—————

香澄「これが〈侵略〉……」

颯樹「行くぞ！レッドゾーンで左から3枚のシールドをブレイク！……T・ブレイク！」

香澄「きゃああああ！」

香澄の手札2↓5 / シールド4↓1

颯樹「……トリガーは無かったか。なら、ブレイズクローで香澄ちゃんに攻撃！」

香澄「うっ！……シールド・トリガー、発動！へピアラ・ハート」をバトルゾーンに  
！」

香澄のシールド1↓0

—————

ピアラ・ハート

【文明】 火文明

【種族】 ファイアー・バード

【マナコスト】 3 【パワー】 1000

■ S・トリガー

■ このクリーチャーがバトルゾーンに出た時、相手のパワー1000以下のクリーチャーを1体、破壊する。

—————

香澄「登場時効果で、パワー1000以下のクリーチャー……ブレイズクローを破壊  
!」

凶戦士 ブレイズクロー【破壊】!!!

颯樹「くっ……ターンエンド」

颯樹の手札4 / マナ3 / 使用マナ0 / シールド1

—————

【TURN7】〔PL:香澄〕

香澄「私のターン! ドロー、マナチャージ! (私は少なくとも……このターン中、2  
回は攻撃しないと行けない。でも相手には〈侵略〉の効果を持つクリーチャーがいる  
……どうしよう……)」

香澄の手札5 ↓ 6 ↓ 5 / マナ0 ↓ 3 ↓ 4

私は何か出来ないかと、手札を見ていました! ……すると目に飛び込んで来たのは  
……!



香澄「（このカードに任せてみよう！）3 マナを使って〈鬼切丸〉を召喚！」

香澄の手札5 ↓ 4 / マナ4 ↓ 1

—————

鬼切丸

【文明】 火文明

【種族】 ヒューマノイド / アンノイズ

【manaコスト】 3 【パワー】 1000+

■ 自分のマナゾーンのカードがすべて火かまたは無色であれば、このクリーチャーのパワー+3000し、「スピードアタッカー」を与える。

—————

香澄「行くよ！ピアラ・ハートで最後のシールドをブレイク！」

颯樹「……トリガーなし」

颯樹の手札4 ↓ 5 / シールド1 ↓ 0

香澄「えつと……能力で【スピードアタッカー】を得ている、鬼切丸でダイレクトア

タック！」

颯樹「……完敗だよ」

ゲームエンド! WINNER: 戸山香澄!

仮想空間から開放された私達は、デツキを纏めていました。

颯樹「どうだった?」

香澄「すつごく楽しかった! またやろう!」

颯樹「いいよ。こっちは何時でもイイよ……その際は負けないよ」

香澄「うん!」

そう言っただけで私は立ち去る事にしました! これ以上遅くなったら、あつちゃんもお母さんもお父さんも心配するからね。と、その時……颯樹くんが呼び止めました!

颯樹「ちよつと待った!」

香澄「どうしたの?」

颯樹「……良ければさ、連絡先交換しない? ほら、友達になった記念に」

香澄「うん! これからもよろしくね!」

そう言つて私たちは、互いの連絡先を交換し合いました。……そして帰つた後、妹に案の定心配されましたが、真つ赤な顔を見るなり、母の元へと駆け出して行きました。

【香澄の部屋】

香澄「颯樹くん……か。カツコよかつたな……／＼……今度は私から誘つてみようかな？」

部屋に入るなり、枕に顔を埋めて足をバタバタさせていた私は、明日香が呼びに来るまで、しばらくの間顔の紅潮が治まりませんでした。

# #3.「ぶつかっちゃった!」

〔花咲川女子学園 1—A教室〕〔沙綾side〕

香澄「でねでね、さーや〜!」

沙綾「へえ、その人にデュエマの相手してもらったんだ。良かったじゃん」

翌日になって、あたしは戸山さんの止まる事の無いマシンガントークを唯々聞いていた。それだけ昨日の事が嬉しかったんだね…羨ましいな。

キーンコーンカーンコーン!!

そう思っている間に、授業開始を告げるチャイムが鳴り、あたしたちは自分たちの席へと着いた。……よし、気持ちを切り替えて行こう!

〔沙綾side out〕

—————  
〔香澄side〕

暫く授業を受けて、時間はお昼休み〜!今日はどこで食べよつかな〜……と歩いていると、少し先に黙々とパンを食べている女の子を見つけました!……あの娘は確か!

香澄 「りみりくん！」

りみ 「ひゃあ！か、香澄ちゃん？」

香澄 「りみりん、一緒にお昼食べよう！」

りみ 「うん！」

りみりんの承諾を得て、私とりみりんは中庭でお昼ご飯を食べ始めました！はあく楽しいな〜！

りみ 「香澄ちゃん、嬉しそう……何か良い事あったの？」

香澄 「あ、分かる!? 実は私、デュエマ始めたんだ〜」

りみ 「そうなんだあ……ウチもやってんねん!……ひゃあ!ま、また出ちゃった……」

香澄 「そうなの!?……だったらさ、放課後になったらカードショップに行かない？」

りみ 「い、良いの!?!」

香澄 「うん!ぜひ行こうよ!」

と、私はりみりんを誘う事に成功しました!……また、颯樹くんに会えるかな?

〔放課後〕

香澄 「それじゃあ、行くこう!」

りみ 「うん!」

? 「これから……何処に行くの?」

途中から声を掛けて来たのは、あっちゃんと同じ部活の先輩で……りみりんのお姉ちゃんである牛込ゆり先輩! りみりんは私から誘われた後、ゆり先輩の所に行つてたみたいで。

香澄 「はいっ! 私とりみりで、近くのカードショップに行こうかと!」

ゆり 「なるほど……面白そうね。私も行きたいのは山々なんだけど、部活があるから……りみをお願いね、戸山さん」

香澄 「分かりました! 行くよ、りみりん!」

りみ 「うん!……行つてきます、お姉ちゃん!」

そう言つて私とりみりんは『RED SPEED』へと続く道走り始めました!

よし！今日もやるぞ〜！

――――  
【カードショップ『RED SPEED』】

りみ「大きいねえ〜……」

香澄「大丈夫だよっ、りみりん！中にいる人は優しいから！……こんにちは〜！」

私はそう言っさりみりんを連れて、カードショップの中へと入って行きました。すると、そこには颯樹くんともう一人居ました！

颯樹「いらっしやい」

？「こんにちは」

香澄「こんにちは、颯樹くん！……えと、その人は？どう言う関係？」

私がそう言うと、私の目の前に座っている、金色の髪をロングストレートで卸している女性は、自己紹介を始めました！

？「私は淀川 碧月と言います。よろしくお願ひしますね、戸山 香澄さん」

香澄 「な、何故……私の名前を？」

碧月 「貴女の名前は颯樹くんから聞き及んでいますわ。なんでも『初陣で善戦した女子校生』だとか」

香澄 「い、いやあくそれほどでも／＼／＼」

碧月さんから褒められたのが嬉しかったのか、私は照れ隠しに後頭部を掻きました。そして、碧月さんはりみりに目を向けました。

碧月 「その貴女、名前は？」

りみ 「は、はい！う、牛込……りみ……です」

碧月 「りみさん……ですネ？よろしくお願ひします」

りみ 「よ、よろしくお願ひします……」

りみりんが自己紹介を終えた後、颯樹くんが本題を切り出しました。

颯樹 「そう言えば……2人はデュエマしに来たの？」

香澄 「うん！」



りみ「そう…です」

颯樹「僕と香澄ちゃんは昨日戦ったから…碧月ちゃん、りみちゃんをお願いできる？」

碧月「分かりましたわ。任されたからには、全力を以てお相手いたしますわ」

りみ「よ、よろしくお願いします！」

こうして…碧月さんとりみりんのデュエマが行われる事に！すっかりその目に焼き付けないと！

—————

【仮想空間内：教会】

碧月「シールド展開ですわ」

碧月のシールド0↓5

りみ「し、シールド展開！」

りみのシールド0↓5

そしてお互いにデッキの上から5枚を手札に加え、準備が整いました！そして、2人は向かい合いました！

碧月 「参りますわよ？」

りみ 「は、はい！」

碧月 / りみ 『デュエマ、スタート!』

## #4. 「驚いちやつた！」

【途中経過】

りみの手札5 / シールド5 《先攻》

碧月の手札5 / シールド5 《後攻》

|-----|

【TURN1】〔PL：りみ〕

りみ「わ、私のターン！ マナチャージ！……ターンエンド、です」

りみの手札5 ↓ 4 / マナ0 ↓ 1 / シールド5

|-----|

【TURN2】〔PL：碧月〕

碧月「私のターンですわ。ドロ、マナチャージ！」

碧月の手札5 ↓ 6 ↓ 5 / マナ0 ↓ 1

碧月（マナゾーンのカードを見る限り……りみさんの使用戦略は《アウトレイジ》。墓

地は自然と増えますから、今後の動向に目を向ければ良いですわね）

碧月「ターンエンドですわ♪」

碧月の手札5 / マナ1 / シールド5

【TURN3】〔PL:りみ〕

りみ「私のターン! ドロー、マナチャージ! ……2 マナを使って〈スリリング潜航する穿孔<sup>ドリル</sup>ガ〉を召喚!」

りみの手札4 ↓ 5 ↓ 4 ↓ 3 / マナ1 ↓ 2 ↓ 0

ギーガ『任せな、嬢ちゃん。俺のドリルで、道を拓いてやるからよ』

潜航する穿孔 ギーガ

【文明】水文明【種族】アウトレイジ

【マナコスト】2【パワー】1000

■このクリーチャーは、ブロックされない。

りみ「続けて…私の場に《アウトレイジ》がいるので〈G・ゼロ〉発動! 〈無重力<sup>ゼロゼロ</sup>ナイン〉を召喚!」

りみの手札3 ↓ 2

—————

無重力 ナイン

【文明】火文明【種族】アウトレイジMAX

【マナコスト】3 【パワー】1000

■G・ゼロバトルゾーンに自分のアウトレイジがあれば、このクリーチャーをコストを支払わずに召喚してもよい。

—————

りみ「私はこれでターンエンド」

りみの手札2／マナ0／使用マナ2／シールド5

—————

【一方……】

颯樹「ふうむ……りみちゃんは《アウトレイジ》かくなかなか意外だね」

香澄「私も！……ねえ颯樹くん」

颯樹「ん？どうかした？」

—————

【TURN4】〔PL：碧月〕

碧月「私のターンですわ♪ドロ、マナチャージ！……私も2マナを使って〈浮魂うこん

ターメリック〉をバトルゾーンへ！」

碧月の手札5↓6↓5↓4 / マナ1↓2↓0

—————

浮魂 ターメリック

【文明】 光文明 / 闇文明 【種族】 オラクル

【マナコスト】 2 【パワー】 3000+

■ マナゾーンに置く時、このカードはタップして置く。

■ ブロツカー

■ このクリーチャーは、相手プレイヤーを攻撃できない。

■ ブロック中、このクリーチャーのパワーは+2000される。

—————

碧月 「私はこれでターンエンドですわ♪……次からが本領発揮ですわ」

碧月の手札4 / マナ0 / 使用マナ2 / シールド5

—————

【TURN5】 【PL:りみ】

りみ 「私のターン! ドロ、マナチャージ! 3マナを使って<sup>アカシツク・フオース</sup>虚空の力 レールガン

を召喚!」

りみの手札2↓3↓2↓1 / マナ2↓3↓0

虚空の力 レールガン

【文明】 火文明／水文明 【種族】 アウトレイジ

【マナコスト】 3 【パワー】 6000

■ マナゾーンに置く時、このカードはタップして置く。

—————

りみ「先ずは……ギィガでシールドを攻撃！」

ギィガ『オオラアアア！』

碧月「うっ……！！……シールドトリガー発動！へグロリー・スノー〜!!!」

碧月のシールド5↓4

—————

グロリー・スノー

【文明】 光文明

【マナコスト】 4 【種類】 呪文

■ S・トリガー

■ 相手のマナゾーンにあるカードの数が自分のより多い場合、自分の山札の上から2枚を、自分のマナゾーンに置く。

—————

碧月「相手のマナが私より多いので、山札の上から2枚を、マナゾーンに追加します

!」

碧月のマナ0↓2／使用マナ2

りみ「残ったナインでシールドを攻撃!」

碧月「ターメリックでブロック!この時、ターメリックのパワーを+2000!」

無重力 ナイン【撃破】!!!

りみ「……タ、ターンエンド」

りみの手札1／マナ0／使用マナ3／シールド5

—————

【TURN6】〔PL:碧月〕

碧月「1枚割られた所で、どうと言う事ありませんわ。私のターンですわ!ドロー、マナチャージ!5マナを使ってへ策士のイザナイ ゾロスターを召喚!」

碧月の手札4↓5↓4↓3／マナ4↓5↓0



ゾロスター『我が名は（策士のイザナイ　ゾロスター）……主である碧月の為、勝利を届ける事をお約束します』

—————

策士のイザナイ　ゾロスター

【文明】 光文明／闇文明 【種族】 オラクル

【manaコスト】 5 【パワー】 2000

■ マナゾーンに置く時、このカードはタップして置く。

■ 自分のターンの終わりに、自分の他のタップされているクリーチャー1体を破壊してもよい。破壊した場合、次のいずれかひとつを選ぶ。

▶ 自分の山札を見る。その中から、コスト7以下の無色クリーチャーを1体選び、バトルゾーンに出してもよい。その後、山札をシャッフルする。

▶ コスト7以下の無色クリーチャーを1体選び、自分の手札からバトルゾーンに出してもよい。

—————

碧月「バトルですわ！ターメリックでギーガに攻撃します！」

潜航する穿孔　ギーガ【撃破】!!!

りみ「ギーガ!」

碧月「ターンエンド……する時にへ策士のイザナイ ゾロスターの効果が発動しますわ!」

りみ「ええ!?!」

—————

香澄「そんな効果があるの!?!」

颯樹「基本的に《オラクル》の一部のクリーチャーが名に持つ「イザナイ」と言うのは、自らの格上の存在である、無色クリーチャーを呼び出す為の『鍵』を担ってるんだ」

香澄「へ、へえ」

—————

碧月「私はタップされているへ浮魂 ターメリックを破壊して、デツキからコスト7以下の無色クリーチャーであるへ妖精左神 パールジャムをバトルゾーンに出しますわ!」

浮魂 ターメリック【破壊】!!!

パールジャム『ウフフ……』

—————

妖精左神 パールジャム

【文明】ゼロ文明

【種族】ゴッド・ノヴァ／スノーフェアリー

【manaコスト】6 【パワー】6000+

■このクリーチャーをバトルゾーンに出した時、またはこのクリーチャーがゴッドとリンクした時、自分の山札の上から1枚をmanaゾーンに置く。

■W・ブレイカー

■レフト左・G・リンクゴッド

■このクリーチャーがリンクしている間、このクリーチャーはシールドをさらに1枚ブレイクする。

—————

りみ「み、見てるだけで……凄く、威圧感が……のしかかって来る……!」

碧月「パールジャムの登場時効果で、私の山札の上から1枚をmanaゾーンに置きますわ。改めて、私はこれでターンエンドですわ♪」

碧月の手札3／mana0↓1／使用mana5／シールド4